

2023年3月28日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

## 独立行政法人国立美術館『国立アートリサーチセンター』 2023年3月28日設立、本日より始動！

～各事業から詳細が決まった新しい取り組みを発表～

独立行政法人国立美術館（本部：東京都千代田区 理事長：逢坂恵理子）が日本におけるアート振興の新たな推進拠点として設立する『国立アートリサーチセンター』（センター長：片岡真実）は、本日より各事業を本格始動します。

当センターは、「アートをつなげる、深める、広げる」をキーワードに、国内外の美術館、研究機関をはじめ社会のさまざまな人々をつなぐ新たな拠点として、専門領域の調査研究（リサーチ）に留まらず、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティスト支援などに取り組み、日本の美術館活動全体の充実を目指します。

設立日である本日、各事業より詳細が決まった新しい取り組みを発表します。

### 詳細が決まった新しい取り組み

作品活用促進	<p><u>国立美術館連携事業</u> 全国の美術館等と協働し、国立美術館のコレクションを活用した2つの連携事業の公募を3月28日から開始し、募集要項等を公式サイトにて公開します。</p> <p>■「国立美術館 コレクション・ダイアログ」 国立美術館のコレクションに自館の所蔵作品を加えて構成した展覧会の企画を、全国の美術館等から募り、応募館を会場として実施します。 ・募集年度：2025（令和7）年度 募集期間：2023（令和5）年3月28日～6月30日 ・2025年度担当国立美術館：国立工芸館</p> <p>■「国立美術館 コレクション・プラス」 自館のコレクションに国立美術館の所蔵作品1点から数点を加えて構成したテーマ展示の企画を、全国の美術館等から募り、応募館を会場として実施します。 ・募集年度：2024（令和6）年度 募集期間：2023（令和5）年3月28日～6月30日 ・2024年度担当国立美術館：国立西洋美術館</p>
情報資源	<p>ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」の持続的な運用と発展 文化庁アートプラットフォーム事業が運用してきた「アートプラットフォームジャパン（APJ）」サイトを継承し、センターにおいて運用開始します。</p>
ラーニング	<p>誰もが使いやすい美術館に向けた取り組み 発達障害のある方とその家族のための美術館案内「ソーシャルストーリー」を、全ての国立美術館分を制作し、3月28日からセンター公式サイト（<a href="https://ncar.artmuseums.go.jp">https://ncar.artmuseums.go.jp</a>）にて公開します。国内でも先駆的な取り組みであり、今後国内の美術館で理解を広げていくことを目指します。</p>



添付別紙：各事業詳細について 3枚

#### <報道関係のお問合せ先>

『国立アートリサーチセンター』広報事務局（株式会社プラップジャパン内）

TEL 03-4570-2273 FAX 03-4580-9127

E-mail [ncar@prap.co.jp](mailto:ncar@prap.co.jp)

※営業時間：月～金 10時～18時（祝日・年末年始除く）

## 作品活用促進

### 国立美術館連携事業

地域におけるアートの鑑賞機会の充実と美術館の展示・調査研究活動の活性化に貢献することを目的として、全国の美術館等と協働し、国立美術館のコレクションを活用する2つの連携事業、「国立美術館 コレクション・ダイアログ」と「国立美術館 コレクション・プラス」の企画の公募を2023年3月28日より開始します。

本事業を通して、国立美術館と開催館、それぞれのコレクションに新たな光をあてるとともに、さらなる魅力の発見につながるような展覧会の開催を推進します。

#### ●国立美術館 コレクション・ダイアログ



各地の美術館とのより深い連携を目的とし、従来の「国立美術館巡回展」を刷新しました。国立美術館のコレクションに開催館のコレクションを加え、より高いテーマ性をもつ展覧会を、両館の協働の下に実現していくことを目指します。

##### 【2025（令和7）年度 概要】

- 募集年度：2025年度開催分
- 募集期間：2023年3月28日～6月30日
- 2025年度担当国立美術館：国立工芸館
- 採択件数：1件
- 全国の美術館等から、国立美術館のコレクションに自館の所蔵作品を加えて構成した展覧会の企画を募り、採択された応募館を開催館として実施します。主催は開催館、担当国立美術館、国立アートリサーチセンターの3者となります。  
(2025年度分の募集要項はこちら：[URL](#))

#### ●国立美術館 コレクション・プラス



各地の美術館と連携し、その所蔵作品展示（コレクション展）をより充実したものとするを目的として新たに開始します。

開催館のコレクションに国立美術館の所蔵作品1点ないし数点を加えることで、より高いテーマ性を持つ小特集展示を両館の協働の下に実現していくことを目指します。

##### 【2024（令和6）年度 概要】

- 募集年度：2024年度開催分
- 募集期間：2023年3月28日～6月30日
- 2024年度担当国立美術館：国立西洋美術館
- 採択件数：1件
- 自館のコレクションに国立美術館の所蔵作品1点から数点を加えて構成したテーマ展示の企画を、全国の美術館等から募り、採択された応募館を開催館として実施します。主催は開催館とし、担当国立美術館と国立アートリサーチセンターが特別協力を行います。  
(2024年度分の募集要項はこちら：[URL](#))

※いずれも、輸送費等開催にあたっての経費の一部は当センターが負担します。

#### ●「コレクション・プラス」プレ事業を開催

長崎県美術館において、同館所蔵の鴨居玲作品と国立西洋美術館所蔵のスペイン・バロックの巨匠ジュゼベ・デ・リベラらの作品を比較展示した「鴨居玲のスペイン時代」展（会期：2023年4月7日～6月11日）が、「コレクション・プラス」のプレ事業として開催されます。

ジュゼベ・デ・リベラ《哲学者クラテス》  
1636年 国立西洋美術館蔵



ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」の持続的な運用と発展

文化庁アートプラットフォーム事業のウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」を継承し、センターにおいて運用を開始します。

2021年に公開が開始され、各方面で活用されてきた以下のデータベース、研究資料群を着実に受け継いで、今後さらに継続的に拡充・発展させ、研究の礎としての情報資源の充実を図ります。

以下は既に「アートプラットフォームジャパン」に掲載されているコンテンツですが、参考までにご紹介します。

●全国美術館収蔵品サーチ

日本全国の美術館の収蔵品情報の可視化と国際共有化を目指し構築されたデータベース「全国美術館収蔵品サーチ (SHŪZŌ)」について、当センター設立後の持続的な運用体制を整備し、データの追加、更新を着実に実行していきます。  
データ数：163館、約16万件

●文献資料

アートプラットフォーム事業において新たに翻訳され、海外専門家らに提供されてきた、主に戦後美術を対象とする日本国内の重要文献（単行本、評論、学術論文、カタログ寄稿文等）の全文PDFファイル（フルテキスト）を受け継ぎ、継続して公開していきます。  
文献数：58件

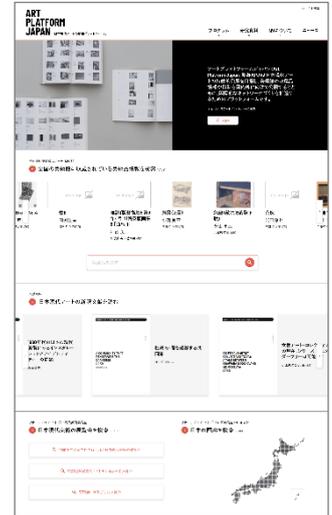
●リサーチプロジェクト

・日本現代美術展調査

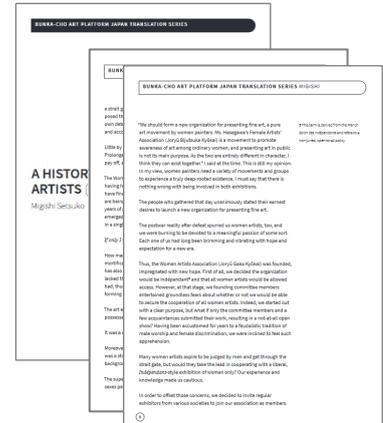
国内外の美術館等で行われた日本現代美術展の開催記録を日本語・英語で継続して発信していきます。  
データ数：2,339件

・日本の画廊調査 1945年以降

1945年以降の画廊に関する基本データを今後さらに追加、更新していきます。  
データ数：2,409件  
(データ数はいずれも2023年3月28日現在)



「アートプラットフォームジャパン」トップ画面



翻訳文献の全文PDFファイルの例



現代美術展データの例

## ラーニング

### 誰もが使いやすい美術館に向けた取り組み

発達障害のある方とその家族のための美術館案内「**Social Story (ソーシャルストーリー)** はじめて美術館にいきます。」を制作しました。**国立美術館の全館**（東京国立近代美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館）のソーシャルストーリーを、**3月28日から公開**します。

近年では、「ソーシャルストーリー」もしくは「ヴィジュアルストーリー」などの名称で、社会学習ツールとして用意している海外の美術館はあるものの、国内では先駆的な取り組みと言えます。今回、複数の発達障害の専門家の意見を反映し、全ての国立美術館分を企画・制作しました。



(PDF版ダウンロードはこちら：[URL](#))

### 「ソーシャルストーリー」とは

発達障害の方とその家族や関係者をサポートする社会学習ツールです。状況に応じた情報を共有することで、当事者と関係者が安心できる状態をつくることを目的とし、社会的な状況や行為などを、絵や写真を用い、やさしい文章で説明しています。

国立美術館のソーシャルストーリーでは、写真や文章で入館から退館までの様子が説明されています。建物の内外でのルールを事前に知ること、見通しを持って、美術館で安心して過ごす手助けとなるように構成しています。

